

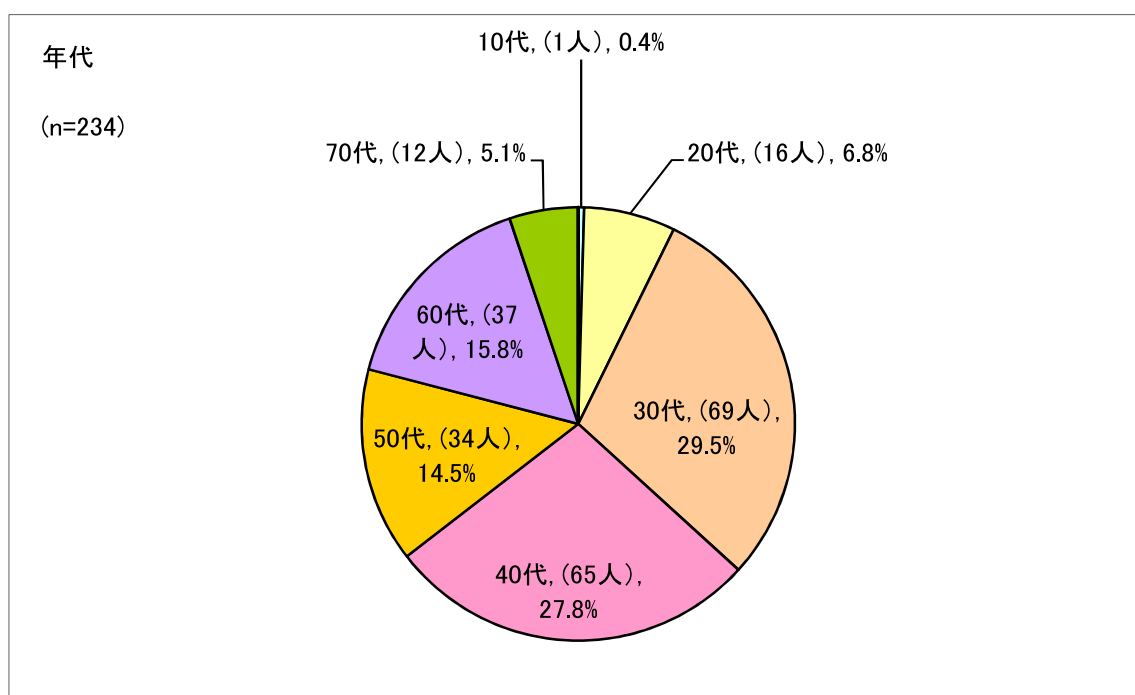
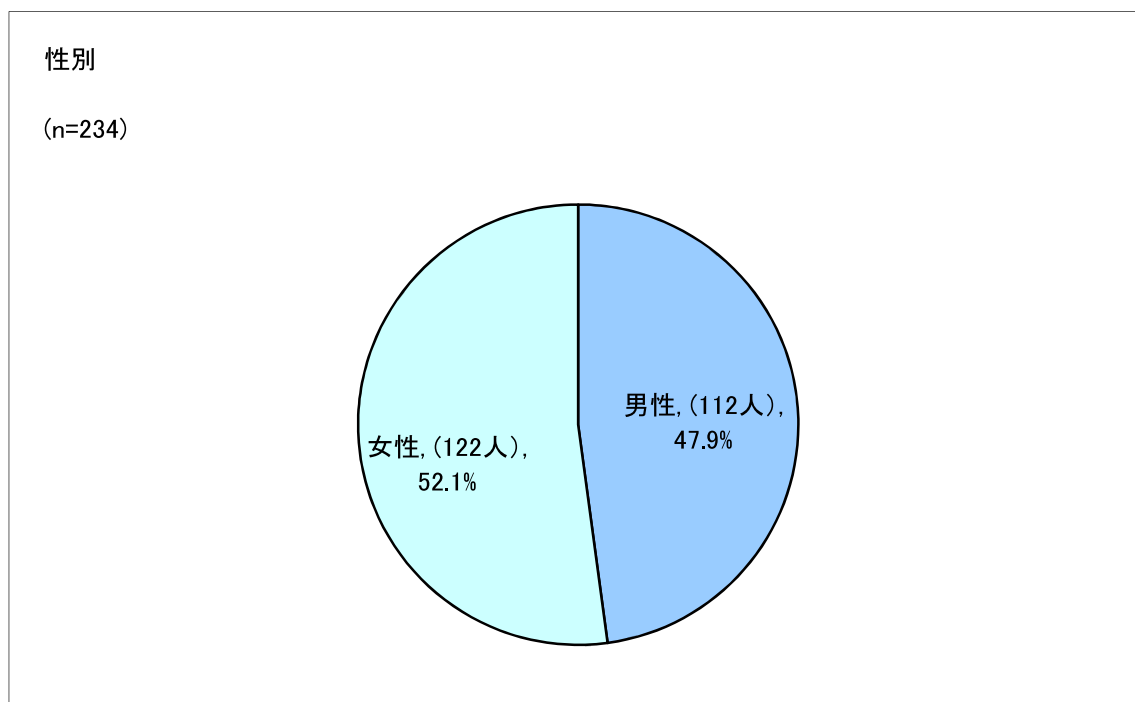
成田市インターネット市政モニター アンケート集計結果（第16回）

第16回のテーマは「障がい者の差別解消に関するアンケート」でした。

登録者数：320人

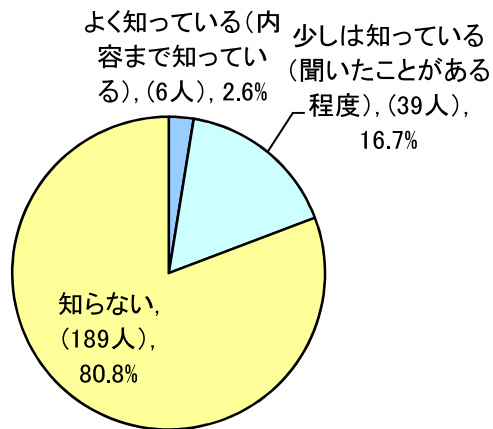
実施期間：平成27年5月8日(金)～5月18日(月)

回答者数（回答率）：234人（73.1%）



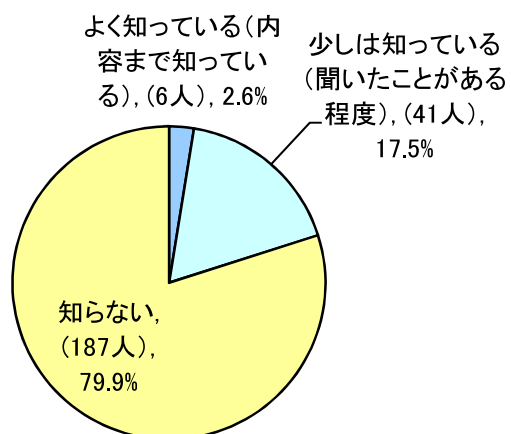
[Q1]あなたは、障がい者差別の解消を目的に、千葉県で全国に先駆けて、平成18年に「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」が制定されたことを知っていますか。(単一選択)

(n=234)



[Q2]あなたは、障がい者差別の解消を目的に、平成25年に「障害者差別解消法」が制定されたことを知っていますか。(単一選択)

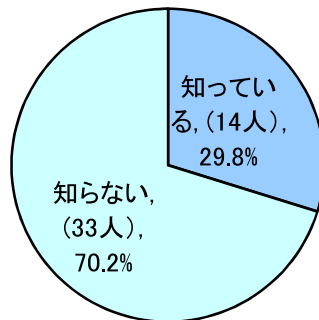
(n=234)



○「障害のある人もない人もともに暮らしやすい千葉県づくり条例」、「障害者差別解消法」とともに、それらの内容を詳しく知っている人はごく少数で、約8割の人が存在を知らないということがわかりました。

[Q3]障害者差別解消法が平成28年4月1日に施行(運用開始)されることを知っていますか。(単一選択)

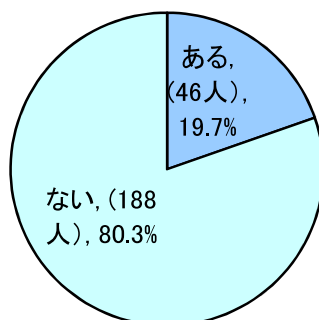
(n=47)



○Q3で障害者差別解消法について「よく知っている」、「少しは知っている」と答えた人の内、同法が平成28年4月1日に施行されることについて、29.8%が「知っている」、70.2%が「知らない」と答えています。法律や条例の存在とともに、周知が十分ではないことがわかりました。

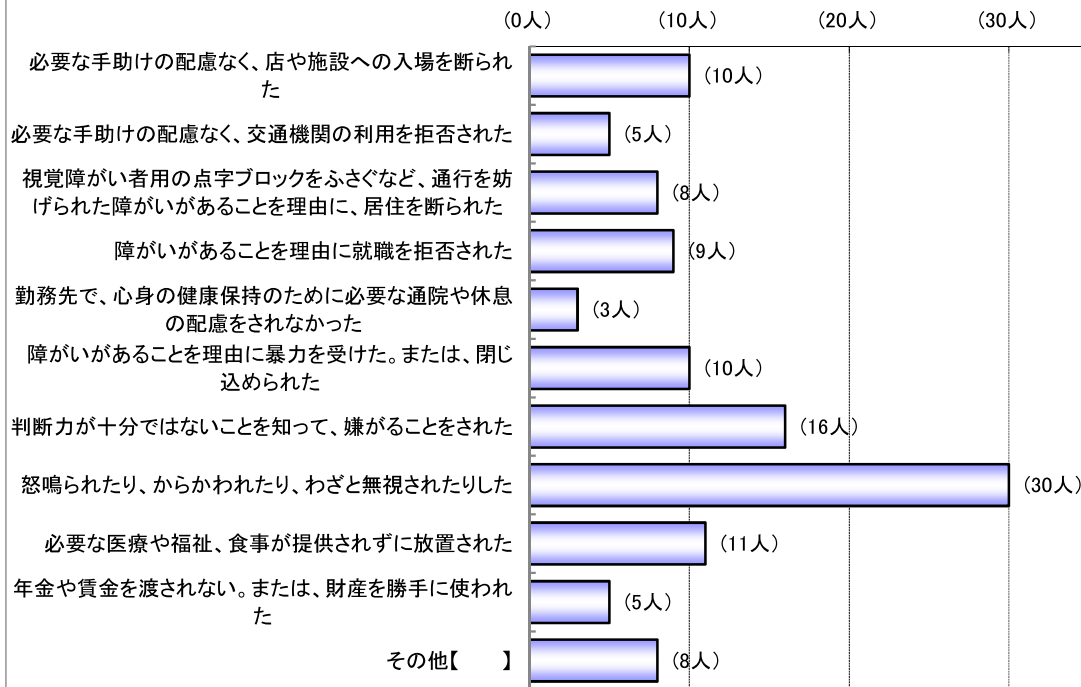
[Q4]障害者差別解消法では、障がいを理由として、正当な理由なくサービスの提供を拒否したり、制限したり、条件を付けたりするような「不当な差別的取扱い」を禁じています。あなたは、身の回りで障がいのある方が差別や虐待を受けていると感じたことがありますか。(単一選択)

(n=234)



[Q5]具体的に、障がいのある方に対してどのようなことがされていたかを見聞きしたことがありますか。(複数回答可)

(n=46)



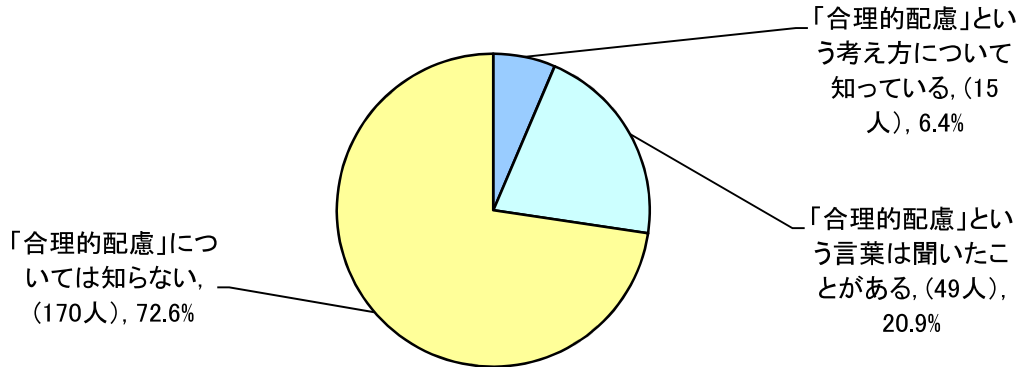
○障がい者に対する差別や虐待があると感じる人が 19.7%でした (Q4)。その内容については、「怒鳴られたり、からかわれたり、わざと無視されたりした」が 30 人で最も多く、次いで「判断力が十分ではないことを知って、嫌がることをされた」が 16 人、「必要な医療や福祉、食事が提供されずに放置された」が 11 人となっており、差別や虐待が疑われることが多く発生していることがわかりました。

「その他」として寄せられた意見は次のとおりです。

- ・幼稚園の入園拒否。
- ・成田市市の私立幼稚園は障がい児が入園することを嫌がる傾向がある。
- ・無視をされている。
- ・入りたい幼稚園に入れない。
- ・常にいわれのない誹謗中傷にさらされている感じている。
- ・レストランやスーパー等で好奇の目で見られる。
- ・同じ集合住宅内の住人から誹謗中傷を受けた。
- ・大浴場での入浴を嫌がられた。

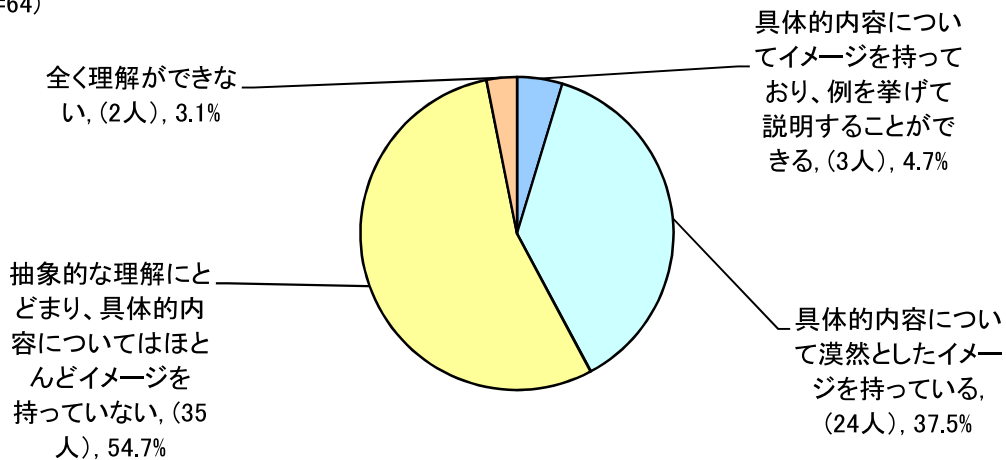
[Q6]障害者差別解消法では、「不当な差別的取扱い」のほかに、障がいのある方がない方と同じように生活するために過大な負担とならない範囲で行う配慮や工夫を「合理的配慮」と規定され、行政機関や民間事業者に対して求められています。あなたは、この「合理的配慮」について知っていますか。(単一選択)

(n=234)



[Q7]あなたは、「合理的配慮」の具体的な内容について具体的なイメージを持っていますか。(単一選択)

(n=64)



○「合理的配慮」の具体的な内容について、42.2%が何らかのイメージを持っていますが、57.8%が十分に理解できていないと答えていることから、ここでも法制度の周知が十分でないことがわかりました。

なお、「合理的配慮」とは、障がいのある人から何らかの配慮を求める意思表示があった場合には、負担になり過ぎない範囲で社会的障壁(※)を取り除くために必要かつ合理的に配慮することをいいます。具体的には、「視覚障がいのある人に書類の内容を読み上げて説明する。」「聴覚障がいのある人に筆談で説明する。」「車いすで電車に乗る人を駅員が手助けする。」などが挙げられます。

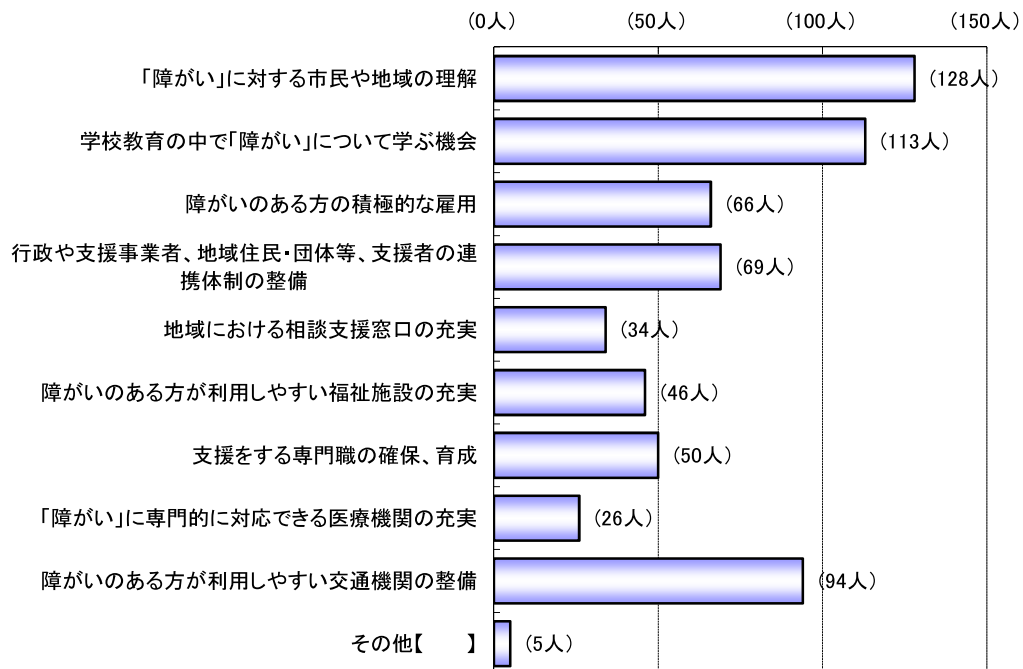
※「社会的障壁」とは、障がいのある人にとって利用しにくい施設や設備、制度のほか、障がいのある人の存在を意図していない慣習や文化、障がいのある人への偏見などをいいます。

[Q8]あなたがイメージする「合理的配慮」とは、どのようなことですか。(自由記述)

- ・不当な解雇をしない。その人が仕事をしやすい環境を整えたり、対応をする。学校でパソコン、タブレット端末などを使うことを認める。
- ・就職等の取扱いで、点字による問題作成あるいは、パソコンによる音声化および時間的配慮、口頭での回答を文書化するパソコンの貸与等で、障がい者が健常者並みの採用条件になるように配慮する。
- ・理にかなった配慮をする。
- ・お互いが分かり合え、お互いが納得できる行動をする。
- ・ユニバーサルデザインをより多く取り入れる。
- ・人的配置
- ・障がい者目線で見たまちづくり、点字ボード等の設置拡大。
- ・逆差別にならない程度で、障がい者が利用しやすい施設を整備する。
- ・障がい者が医療を受ける際に便宜を図る。
- ・採用等の際、障害者が不利にならないような支援をする。
- ・障がいのある方を見かけた際に何かお手伝いすることができないか配慮することを意識するようにすることと、積極的に関わるようにすること。
- ・基本は、同一目線で対応する。
- ・ハンディキャップがあっても、不自由なく生活できるような仕組み。
- ・障がい者も出入りする施設(商店・公共施設)に設置する歩行困難者のためのスロープ設置など。
- ・視覚障がいのある方々への音声での案内は(駅のエスカレーターなど)ほとんど利用者がいないにもかかわらず、一日中作動しているが、該当者がその都度駅員や他の乗客に援助を依頼する仕組みを作った方が合理的と考える。階段端の黄色表示は有効である。
- ・皆が平等に生活できるような仕組みづくり。
- ・その人の立場を考えて対応をする。
- ・新設する施設などを障がいのある方、ない方分け隔てなく利用しやすいようにすること。
- ・車椅子の利用者などを考慮した構造の建物やフレックスタイムの出勤、点字や音声によるテキストの採用。
- ・障がいのある人とない人の社会的差別をなくすこと。
- ・健常者とのちょうあが図られた内容。
- ・バリアフリー・ユニバーサルデザインなど、障がいのある人もない人も共に使いやすい施設整備。
- ・車椅子利用者が外出することができるように段差をなくし、エレベーターを設置する。ストマが入浴することを嫌悪しない。目の不自由な人が外出できるように点字ブロックを設置する。点字ブロック上に物を置かない。
- ・障がいのある人が、障がいのない人と同じように暮らすために行われる、物理的・制度的支援のこと。
- ・健常者と同等の行動ができるだけの配慮。
- ・車いすを使用するためのスロープの確保など。
- ・障がい者に対して生活や仕事面で差別することなく接し、良い関係を築いていく。

[Q9]障がいの有無にかかわらず、ともに暮らしやすい社会を築くために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。

(n=234)



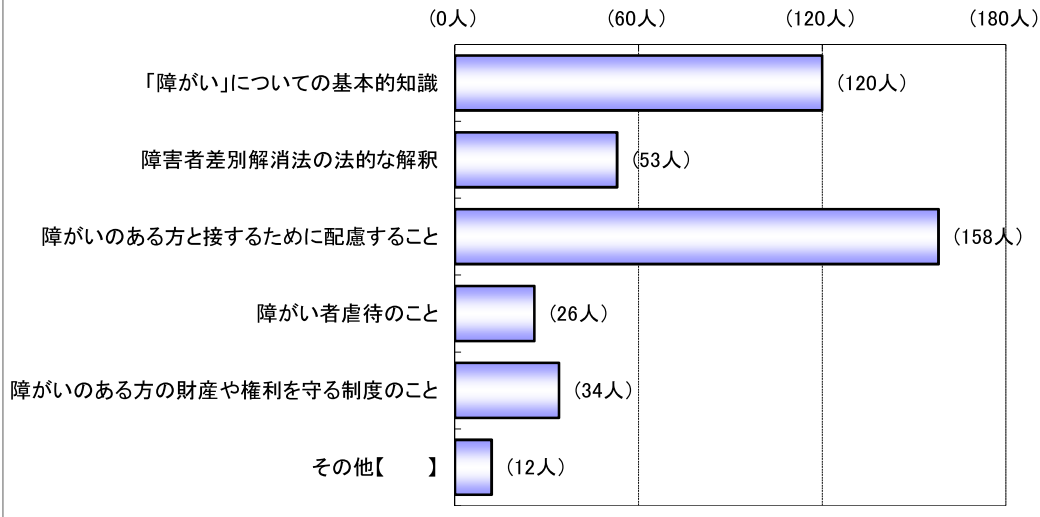
○「利用しやすい交通機関の整備」や「積極的な雇用」、「支援者の連携体制の整備」など、幅広い分野での施策の実施が必要であることがわかりますが、『障がい』に対する市民や地域の理解」や「学校教育の中で『障がい』について学ぶ機会」といった、「『障がい』について理解すること」を挙げた方が最も多いという結果になりました。このことから、様々な機会を得て、啓発に努めてまいります。

「その他」として寄せられた意見は次のとおりです。

- ・ひとり住まいされている方への支援。
- ・障がい者の個性的な能力開発。
- ・障がい者は障がいを受け入れて乗り越える努力をし、周りはそのを支える努力をする。
- ・障がいを持ちながら仕事や活動を射ている方の話。
- ・障がい者自身の意識改革。

[Q10]障がいのある方の権利や地域での生活について、市民や地域の理解を深めるために、本市では市民向け公開講座を実施する予定です。あなたが参加するとしたら、どのようなことが知りたいと思いますか。

(n=234)



○法制度の解釈よりも、「『障がい』とはどのようなことなのか」、「配慮することはどのようなことがあるのか」といった、日常生活において「具体的にできること」について知りたいという意見が大半を占めました。

「その他」として寄せられた意見は次のとおりです。

- ・様々な支援策。
- ・市の職員の育成実態と実際の活動実績の紹介。
- ・障がいを持つ方が周りに何を求めているか。
- ・障害者の個性的な芸術品や工芸品づくり。
- ・弱者ビジネスとして利用される障がい者の立場。
- ・障がいのある人の生の意見。
- ・障害者差別解消法の施行で何がどう変わるのか。
- ・障がいのある人が何に困っているのか。
- ・障害者の自立への支援策。

[Q11]その他、障がい者差別の解消に関するご意見をお書きください。(自由記述)

- ・市内の幼稚園で障害がある子の入園を拒否する現実があるらしい。調査指導をしてほしい。
- ・差別と感じることで自分が差別だと思う。「こういうことをしたら差別なのではないか。」と思う前に、当たり前誰にでも何でも助け合うことを当たり前ででき、感じることで差別の解消になると思う。
- ・身近に障がいの方がおらず、接する機会がないので、実際どうやって接して良いのかわからないのが実情です。
- ・障がいのある人もどんどん社会に出ていけるようになればいいと思う。お互い配慮することを忘れないのが一番差別を無くすと思う。
- ・健常者、障がい者共に、どの様に接すれば良いのか、どうしてほしいのかが分からないから、距離が生まれてしまうのだと思う。お互いが、気軽に接する事が出来るイベント等を通じて、少しでも距離を縮めることが出来れば良いと思う。

- ・障がいのある子が、同年代の子にからかわれているのを見たことがあります。子供のうちから、障がい者に関する知識を学んだほうが良いと思います。
- ・現在、小学生の子供が障がいをもっています。育てていく中で、初めて差別を感じた事は幼稚園や保育園に入ることの難しさです。手がかかるといことで、だいたいの私立幼稚園は入園する事を拒みます。保育園には、療育に通わせ、病院に行き、さらに仕事をしなくてはいけないという三重苦です。障がい児でも必ず集団生活をおくれる受け皿になるような幼稚園、保育園が増えていくことをのぞみます。
- ・「障害者」のことを「障がい者」と表記することは、何か意図があるのか知りたいです。
- ・具体的な問題点及び対処策を、行政・教育・地域のレベルで、実態把握・対処策立案・実行・結果分析・改善を不断に行う事。特に、教員のレベルが低すぎるので、まずは、教員の教育から行うべし。
- ・社会、特に地域社会の理解が必須。
- ・健全者の理解が一番大切。点字ブロックの通路を確保すること、見守りと手助け、全員がボランティアの精神。学校、自宅での教育が必要。(道徳の授業)
- ・健全者(という呼び方は好きではないですが)だって得手不得手はあるもの。困っているひとがいたら助けるのは当たり前の社会になってほしいですね。
- ・障がい者に耳を傾け、目を配る意識を市民が持つべきだと思う。自分さえ良ければ、他人の事は関心がない世の中ですが、まずは気付ける人達から研修を始めていくと良いと思います。が、障がい者といっても精神、身体等幅広い障がいがあるので、入口を広くするのも一つの手ではないでしょうか。短時間で理論ばかりを植え付けるのもどうかと思います。東京で見た光景ですが、ホームを歩いていた盲人が「誰か助けてください」と大声で助けを求めていましたが、すぐに近くにいた人が当然の様に寄り添って電車に乗り込まれた情景には正直感動しました。障がい者も自ら自然に助けを呼べる世の中にしたいものです。
- ・障がい者を積極的に雇用して、差別をなくす。障がい者差別について詳しくは知らない人が多いと思うのでもっと詳しく人々に伝えた方がいいと思う。
- ・周りが優しい気持ちで見守ったり、必要な時は手助け出来る環境を子供の頃から教えていきたいと思います。当たり前に出来るには人との関わりを避けないという教育も親子ともに必要と思います。
- ・もし職場にて差別を目撃した時の対処(内部告発)について、対応ができない方もいるのではないかと思います。
- ・全く知りませんでした。ひとごとになってしまっていると実感しました。自分達もいつお世話になるかわからないので、きちんと知るべきと感じました。
- ・自分自身、目が不自由になり、色々な場所で差別や不便を感じた。
- ・これから診断を受けるかもしれない幼児が多く通う幼稚園に、形だけの補助員を置くのではなく、配置する側の人間もきちんと勉強をして、配置するべきだと思います。やはり物事は机上の空論が多いです。
- ・障がいについては幸いに縁がなく知識を持ち合わせていません。これから勉強しようと思います。
- ・障がい者への虐待や不当な差別をなくす啓発と具体的な対策が必要だが、この対策等が過剰になると逆差別を生じ、反って社会の理解を阻害する結果になる。この点への配慮が肝要と考えます。
- ・学校の中でその様なクラスを作り、子供の頃から接する場があれば、大人になっても変な先入観もなく接する事が出来るかもしれない。
- ・これから必要なことなので考えていきたいと感じました。
- ・障がい者が健全者と一緒に過ごせる環境を作り出すことが、障がい者にとっても健全者にとっても幸せなどはないでしょうか。
- ・障がい者が安心して暮らせるよう、行政が積極的に、障がい者が過ごし易い環境整備に取り組んでほしい。同時にソフト面からの支えとして、障がい者差別防止に関する取り組みにつき、市民への周知を進め、差別のない社会

の実現を図ってほしい。

- ・障がい者も働けるようにもっと訓練を受けられる制度があったほうがよい。
- ・障がい者について小さいときから学んだり接すれば、少しは差別がなくなると思う。
- ・「障がい者自身が『障がいをもっているから何でも思うようになる』という逆差別を捨てるべきである。」と思うことが多い。
- ・根深い差別意識は、いじめ同様に陰湿で卑劣極まりない。「自分さえ良ければいい」という大人が増えたと感じている。公共に奉仕する精神を持ってない人間及び「権利と義務」をはき違えた輩が増える事は嘆かわしいの一言である。時間を要するが、やはり幼少時からの教育が肝要と思料する。
- ・障がいという定義がどこまでかが分からない、例えばADHDのような外見や普段の生活ではわからないような症状は健常者か障がいかが分からないから。
- ・駅のトイレや道路の段差など、苦勞されている場面に遭遇したことがあります。介護者にとっても、介助者にとってもやさしいまちづくりを積極的に実践してほしいなと感じます。
- ・障がい者と言ってもいろいろな障がいがある。それぞれにどのような対応をしたらよいかを教えて欲しい。
- ・障がい者の方たちを理解することが大切だと思う。
- ・障がいがあることを意識しなくてすむ社会を作ることだと思います。
- ・差別の解消は難しいと思います。偏見を持つ方が まだまだ多い事、どう接していいかわからないというのが理由だと思いますが、できれば関わりたくないという人、多いような気がします。
- ・無意識に人の心の中にある差別を無くすにはどうすればよいか。
- ・なぜ差別が発生するのでしょうか。障がい者は甘ったれたとか、うまくできないくせにとか感じているのではないのでしょうか。障がい者が真摯に生活を営んでいる姿や社会に貢献している姿を市民や県民、国民に知らせるべきだと思います。
- ・本人(家族)がどのようなことを希望しているのかを知りたい。
- ・障がい者に対する配慮も本当に大切だと思いますが、これからの人生を生きていく為に、仕事をする場所の拡大(生活収入の確保、住み易い環境の整備)が必要に思われます。障がい者に優しい成田市になってほしいと思います。
- ・知識や頭で理解するより、直接触れ合う体験が増えていくことこそ重要だと思う。子供から大人まで、気軽に参加できるそういう場、機会をたくさん作ってほしい。
- ・小さい頃から学校教育の一環として取り入れてもらうと、障がいのある方にも柔軟に対応する事や偏見の目で見える事が減少出来るかもしれません。私は小学生の時に車椅子に実際乗ったり目隠して歩いたりしました。
- ・幸い成田市では聞かないが、都会では幼稚園児の声が害だと騒いでいると聞く。これはまさに戦後教育の負の遺産だと思う。ならば障がい者をお願いして幼稚園に住んでもらい、町内美化、新聞配達やお年寄りのお手伝い等々積極的に参加させてみては如何でしょうか。いつかは年老いたり、障がい者になる自分たちの事を棚に上げた彼らに思い知らせてほしい。子供の泣き声も園児の声も車の音もそれが社会だと理解させる。障がい者差別の解消につながるヒントにしてください。園児、小中学校の子供たちにもっともっと障がい者と交流環境を意図して作ってほしいと希望します。成田市が障がい者に取っても住みやすい都市になることを願っています。
- ・私には障がいのある家族がいます。普段の生活で差別を感じることは子供の頃に比べると少なくなってきましたが、やはり、結婚等ではまだ根強く差別が残っているように感じます。公共サービス利用の拒否等、わかりやすい差別はもちろん、このような精神的な差別が解消されて、初めて皆平等に過ごしやすい社会の実現につながるのだと思います。その為には、これからの社会は障がいがあってもなくても同じように生活していけるということを小・中学校の教育を通じて子供たちに根気よく伝えていくことが大切だと思います。無知が偏見や差別を生み出すこと

になると思います。

- ・障がいのある方の手助けの仕方が、わからない。逆に余計なことをしてしまうのではと思ってしまう。
- ・生活弱者に対する思いやりと心使いの方法の教育。
- ・意識の持ち方や考え方を変えていくこと。
- ・家庭、学校、社会、政治等々において、普段から思いやりの心を育む土壌が必要である。
- ・周囲には障がい者差別はない。
- ・一部の限定されたコミュニティーにあることで身近に感じる機会が少なかったり、目に見えない障がいを抱えていることも多いので幅広い知識を持ちたいです。また、いつ自分が障がいをもつか分からないので普段から目に見える知識を持ちたいです。
- ・障がい者用の駐車場に平気で駐車したり、(住宅地)自宅前の歩道を恒常的にマイカーの駐車場にしているなど、身体的障がい者にとって理解が低すぎる。
- ・障がい者側が、障がいを理由に大きな態度をとって過剰なサービスを受けていたり、口調がきつかったりした場面がありました。
- ・啓蒙活動。
- ・職場に障がいのある方がいます。私がここで働き始めた時にいたベテランの方は「存在がむかつく」と言って、差別的な言動を取っていました。そのベテランの方がいなくなった今、障がいのある方にきつく当たる人はいなくなりました。どんどん話しかけたり、新しい仕事を任せたり、本人も以前より仕事がしやすそうです。障がいのある方がいる職場は、理解や配慮がないといけないんだと強く感じました。
- ・子供が小さい内に、出来れば小学校入学前に、障がい者と自然と出会い、触れ合う場面を作ってあげ、障がい者という偏見の目を無くし、自然と受け入れ、手を差し伸べられる人に育ててほしい。専任の先生が必要となりますが、何とか市と幼稚園で協力し、市内の幼稚園などで積極的に障がい者の入園を薦めてほしいです。
- ・寄り添うことが基本かなと思います。
- ・障がい者と言ってもいろいろ異なった障がいの方がおられるので、その方々すべてをケアするというのは、なかなか大変だと思います。われわれ市民に何ができるか？
- ・障がい者についての市民講座を開講するとあったが、そんな学校の勉強のようなことで市民の意識が変わると思えない。その前に駅前や歩道などを障がい者でも使いやすいように整理するべき。
- ・病気に対する偏見がない人間に育ててほしいと思う。義務教育で過去にハンセン病に対する差別のことや生まれながらの障がいや病気による障がいのことも集団生活の中で折々に伝えてほしい。
- ・体の不自由な人や高齢者にも、暮らしやすい社会になってほしい。
- ・障がいの程度が色々あって、一番身近なのは、ダウン症のこどもだと思っています。どんな症状なのか、詳しく知らない、接しにくいとってしまうのですが、普通にできるにはやはり、知ることが大事なんだと思います。
- ・さまざまな障がい者の方々が、それぞれの立場で、健常者にどの様なことを望んでいるのかを知る機会を得たい。
- ・大分市の運営する施設内の喫茶ルームにて、複数名の障がい者の方が会計や接客を生き活きと行っていた。食事後に深々と頭を下げた挨拶に感動した。市自ら積極雇用し、市民と直接接触する機会を設けていると感じた。成田市も「權より始めよ」ではないが、ひとつ参考にして頂きたい。(施設の名称:大分市コンパルホール)
- ・障がい者差別について特に考えた事がなかったので、改めて考えるきっかけがあったらいい事だと思います。
- ・これからも障がいの有無にかかわらず、全ての成田市民が過ごしやすい、暮らしやすい街づくりをお願いします。
- ・一般の市民を含め、誰にでも分かりやすい説明により広報すべき。
- ・障がいへの理解、障がい者教育施設の拡張及び強化、障がい雇用枠の確保。

- ・障がい者専用の施設ではなく、健常者の中に混じて利用できる施設であってほしい。通常の施設では、特定の団体に属する障がい者を除いて、障がい者が入り込むには多少の抵抗があるのが実情と思う。障がい者もそれを感じずに利用できる施設が欲しいと思います。
- ・障がい者という字にさえ気をつかう時代になっているが、対応に過敏になっても「重荷」になる。素直に対応するノウハウを専門家が広めなければならないのでは。
- ・福祉関係のイベントに行くと、障がい者施設のブースで買い物をするのが楽しみなのですが、クオリティの高いものもあって多くの人に知ってもらいたいので、福祉に興味のない人にも手に取ってもらえる場所への販路の拡大があればいいと思います。
- ・障がい者への配慮をするための施設は、バリアフリーや機能トイレなど健常者からみると使用率の低いことが明らかであるが、それらは健常者の都合や視点であり、障がい者が必要な施設や設備が、必要な時に揃っていることが、使用率とは違う視点で重要であると思います。障がい者差別の解消には、そのような障がい者の視点について、健常者が理解できていることが大切だと思います。
- ・他項目でも書きましたが、差別解消へは障がい者自身の意識改革も必要だと思います。周囲ばかりが障がい者に配慮し、障がい者自身はその場に悠々と入ってくればその時点でズレが生じる。障がい者自身も、自分は他の手を借りないとクリアできないだとか、自分の障がいを仕方ないとか、手伝ってくれるのが当たり前という考えでは差別解消の一步はクリアできないと思う。
- ・子供の頃から障がい者と接し、障がい者がいることが当たり前になるような教育をしてもらいたいです。
- ・こんなことを困っている人がいるんだ、と大勢の人が知ることから、「こんな職業支援はどうだろう？」など、良いアイデアが集まると思う。また思いやりの心が生まれると思う。
- ・成田市では障がい者にとって道路が整備されていないと思う。
- ・企業側が障がい者雇用として率先し採用および入社に伴い各手配をしているが、障がい者側が傷病手当金等を申請したいがために入社するケースが成田市ではあります。ハローワーク側の理解と協力を強く求めたい。
- ・差別というか、専用駐車場に健常者が平気で止めていること。また、障がい者でもないのに、ステッカーを貼って使用している車など、チェック機能がない。不信になる。
- ・障がい者差別がどのように起きているのか、その実態を知ることが、解消について考えるためには必要だと思う。とくに日常障がい者の方と接する機会がなく、障がいについて身近に考えることがない者にとっては差別ときいてもイメージがつかなくなったりすると思う。
- ・障がい(それぞれ)のある方が求めている支援とは何か、知りたいと思う。
- ・障がいについての知識を一般に広める。分かっているようで、実は知らないことが多いと思う。
- ・私達一人ひとりが、「障がい者と共に生きてゆく社会づくりを心掛ける」精神の涵養が大切と思う。そのために学校教育は大切な機会だと思います。社会人へは行政によるPRやNPOなどの支援が有用化と思います。
- ・障がい者差別をなくすには、人としての思いやり、やさしさが必要であり、必須条件であると思う。これがないところにはどんなに優れた制度や設備作ったところで意味がなくなってしまうのではないかと考える。
- ・どんな認識が必要なのか知りたいと思う。
- ・障がい者に限らず社会的弱者に対する配慮は「基本的人権」の精神に根差すものであり、差別、いじめ等がはびこるのは文化国家の文化度の低さを如実に物語る。教育の根本とならねばならぬ事がなされていない寒々とした現実がある。
- ・障がい差別のない世界を。
- ・国際都市成田として恥ずかしくない施策を望みます。
- ・テレビで自閉症の男性が書いた～何故彼は跳ねるのか～について表した本が、色々な言語に翻訳され、自閉症

児を持つ親子さんの意識を大きく変えたという内容であり、感動しました。障がいを持つ方々を理解して受け入れるためには、教育を通して正しい知識を得る必要があると思います。出来れば幅広い世代と一緒に体験して学ぶ機会があったら、もっと良いと考えます。

- ・義務教育の中で、全員が障がい者の疑似体験をするカリキュラムを学校教育に必須として取り入れる。
- ・最近、駅などで車いすの方が普通に通勤時間に乗って来られ、駅員さんが、乗りやすいように段差解消の板を持ってアattendしているを見かけ、少しずつ、このような情景が普通になることを期待しています。
- ・単に障がい者の方がいなかった為、いままで特に何も考えて来なかったが、今後は、差別解消について考えていこうと思いました。
- ・差別する心がなくなれば良いと思います。人は皆ちがう個性を持っていることを理解して、暮らしたいです。
- ・自分の周囲に障がい者がいないと知らない事が多いので そういう人達にも理解してもらうような工夫が必要だと思ひます。
- ・全く知らない、関わりのないことだったけれど、知識をつけて差別することないようにしたいと思ひます。
- ・障がい者とひとくくりしているが、どんな障がいがあるかによって必要な支援や、困っていることが違うと思う。見た目は健常者であっても支援の必要な人もいるし、とても難しい課題だと感じる。東京オリンピック、パラリンピックに向けて、成田も変わっていく努力は必要だと思ひます。何をすべきかは、障がいを持っている人たちの声を反映させることができると思ひます。
- ・子供が障がい者なので、どちらかというとな障がい者側の意見になります。福祉車両専用駐車場に停車する健常者をどうにかしてほしいです。また、あからさまに子供を覗き込んでジロジロ見られるのは、とても不快です。特に60代以上の方々に見受けられる対応なのですが、とても不躰な態度だということを教育して頂けるとありがたいです。
- ・障がい者も健常者と同じ人間なんだという根本的、基本的な意識を、社会、学校、家庭で啓蒙して行くことが大切だと思ひます。
- ・私が勤めている企業では障がい者雇用を実施していますが、最近では退職してしまひ障がい者が皆無の状態になってしまっているようです。行政側は企業に採用を促すだけでなく、アフターケアや企業との懇親を図り、せつかく採用しても、採用されてもお互いに不幸にならないよう努めたり制度を作るようにしていただきたいです。
- ・障がい者の習い事や趣味が充実してないと思ひます。これらが、自立や就職などに繋がるのではないのでしょうか？
- ・自分が障がい者だったらと考えて押し付けにならない支援をしていきたいと思ひます。
- ・手助けしたいと思ってもどのようにしたら良いのか、分からないことが多い。障がい者の中には「障がい者だから助けてもらって当然」ということを言ったり、態度を見ると差別されていると主張されても疑問が残ります。
- ・既存の公共施設、団地などのバリアフリー化が必要です。そのために自治体、自治会などによる早急な調査をお願いします。

～担当課まとめ～

○ 今回のアンケートを通じて、残念ながら、私たちの身の回りにも障がいがあることに対して多くの偏見や差別があることがわかりました。そして、このような偏見や差別をなくすためには、「障がい」や「障がい者差別」を単に知識として知ることにとどまらず、学校教育や職場、日常生活の場において障がいのある方が区別されることなく同じ時間を共に過ごすことで、障がいの有無に関わらず、相互理解ができるのではないかと考えます。

成田市インターネット市政モニターの皆さん、アンケートにお答えいただきましてありがとうございました。皆さんのご意見は、今後の市政運営の参考にさせていただきます。
今後とも、成田市インターネット市政モニターへのご協力をお願いします。